●女性保険とは？女性特有の病気に備えておくメリット

【女性保険とメリット】

女性保険といわれるものは、多くの場合、入院や手術等に備える「医療保険」に、女性がかかりやすい病気やがん、妊娠や出産による入院や手術に備えるための「女性疾病特約」を上乗せした保険です。

他の病気やケガで入院する場合には、医療保険から入院給付金や手術給付金が支払われ、女性疾病特約の保障内容に該当する場合には、医療保険からの給付金に上乗せして女性疾病特約からも給付金が支払われるため、「女性特有の病気」と「妊娠・出産」に手厚く備えられるというメリットがあります。

【女性保険を選ぶ時のポイント】

◇お祝い金有りか、お祝い金無しでお手頃な保険料を選ぶか

一定期間入院も手術もせずに給付金を申請しなかった場合には「お祝い金」が支給されるタイプのものがあります。

支払った保険料が掛け捨てにならない点をアピールしたものですが、お祝い金の無いタイプの保険に比べると保険料が高めに設定されている傾向があります。

健康維持のモチベーションとしてお祝い金があった方がいいのか、お祝い金が無くても保険料がお手頃な方がいいのか、比較しながらよく考えて選びましょう。

◇女性向けといっても保障内容はさまざま

保障の上乗せ範囲は保険会社によってさまざまです。

乳がんで乳房を失った場合の乳房再建費用もカバーする保険、女性特有のがんだけでなくすべてのがんで保障を上乗せする保険、がん・心疾患・脳血管疾患の3大疾病まで保障を上乗せする保険もあります。

保障の上乗せ範囲が広がるほど、保険料も上がる傾向にあります。

どこまでを女性保険で備えたいのか、女性保険のほかにがん保険や3大疾病保険などを組み合わせて備えるのかなど、検討してみましょう。

【注意点とまとめ】

◇妊娠・出産

妊娠が分かってからでは医療保険に加入しにくくなります。

一定の妊娠週数までは加入を認めている場合でも、その妊娠については保障の対象外となることが多く、そうなると、せっかく保険に加入したにもかかわらず、妊娠中の入院や帝王切開手術等に備えられなくなります。

また、妊娠・出産で何らかのトラブルがあって医療行為を受けた場合には、その治療に関する病気や部位が一定期間保障の対象外となる可能性があります。そのため、第一子を帝王切開で出産した人が、次の出産に備えて産後に新たな医療保険に入ろうと思ったとしても、子宮が数年間部位不担保になる可能性が高くなります。

気づいた時に必要な保険を備えておきましょう。

◇病気

30代で多いがんの1位が乳がん、2位が子宮頸がんであることは前述しました。

女性特有のがんは、他のがんよりも罹患年齢が低い傾向があります。

がんに備えたいと思うなら、先送りせずに早めに備えておきましょう。